

第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスク和田町保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	児童分野 保育所
事業所住所等	〒240-0065 神奈川県横浜市保土ヶ谷区和田1-13-1 朋和ビル1F
設立年月日	平成19年4月1日
評価実施期間	平成26年6月～26年10月
公表年月	平成27年4月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
【施設の特徴】	
1. 立地上の特徴 園は、相鉄線和田町駅から商店街を歩いて5分のところに位置し、4階建てのビルの1階に、平成19年に開園され、定員60名で現在69名が在籍しています。103平方メートルの園庭を持ち、夏場は3、4個の簡易プールを置いて、子育て支援の一環として地域の子どもたちにも開放しています。	
2. 多彩なプログラムの提供 設置法人から派遣される専任講師によるリトミック、体操教室、英語教室が毎週あり、体を使ったり、歌を歌ったりして、リズム感や運動能力を養い、外国文化に触れたりしています。	
【特に優れていると思われる点】	
1.子どもの気持ちに添った保育の実践 0歳児の遊びのとき、職員は注意深く子どもを見て、表情や指差しなどの子どもの意思を受け止め、安心して過ごせるように応えています。幼児クラスでは、一斉活動のときも、子どもの興味を引き出し、子どもの意向を取り入れるようにしています。何がしたいのか、何が嫌なのか、言葉の足りない部分を補いながら、子どもの欲求を満たすように努めています。ルールがある遊びでも、ルールの発展を子どもたちに任せて、職員は見守っています。	
2.子どもの喫食状況の丁寧な把握と調理方法などへの反映 調理担当者が不定期ですが、クラスに入って食事を一緒にとり、子どもによっては苦手な食材の傾向など細かに見たり、検食日誌の意見欄を増やしたりして喫食状況を丁寧に把握しています。さらに、給食に対するコメントを毎日クラスで日誌に記入し、調理担当に伝えています。それらの結果について、給食会議で十分話し合い、食材の刻み方の形態を改善や、食べ方の工夫などにつなげています。	
3.地域の子育て支援への活動推進 毎月土曜日1回、園庭および園の1室を開放して、地域の未就園児10組の親子の受け入れを『す	

っくすく』と名付けて実施しています。職員が子どもの様子を見て遊ばせたり、本の読み聞かせをしたり、歌を教えたり、夏はプール遊びなどを行っています。実施にあたっては毎月の職員会議で十分話し合っており、職員間の連携を充実させています。また、保土ヶ谷区の地域活動拠点『こっころ』に、職員を派遣し、地域の親子とともに過ごす中で、『すっくすく』のこともアピールしています。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1.異年齢保育の計画的な充実

延長保育時や、クッキング保育のときは異年齢の交流が生まれて、効果が発揮されていますが、カリキュラムとして異年齢児の交流の場が計画的に実施されているように見受けられませんでした。年間計画の中に、異年齢の組み合わせで過ごす体制、カリキュラムを設定するなどの工夫をして、異年齢児の交流をさらに推進することを期待します。

2.子どもが遊びたいおもちゃのある環境のさらなる充実

おもちゃは種類も数量もますますの状況が整えられていますが、乳児も幼児も遊びたいおもちゃを主体的に自由に選んで遊べるような並べ方や、遊び終わったらきちんと片づけられるような視覚的工夫などをして、もう一段の環境の充実が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員は子どもの状態、発達に応じて援助を行い子どもの目線に立ち、せかしたり強制する行為や言葉遣いに職員間でも気をつけています。職員は子どもの気持ちの発信を尊重し、子どもの気持ちに寄り添っています。 個人情報保護と守秘義務についてのガイドラインを全職員は入職時研修を受講し周知しています。保護者には入園時に、園のホームページの写真掲載などへの承認を書面で確認しています。 グループ分けや行事の役割、衣装など子どもの意見を尊重し、園内での順番は月齢順、名前順が定着し、整列は用意ができた順にし、職員は男女に関係なく個々を育てる意識を高めています。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長に合わせ、また、その日の子どもの様子に合わせて、指導計画を変更したり、カリキュラムの難易度を下げるなどの対応を図り、無理をせず次月も引き続いて取り組めるようにしています。活動への参加も、子どもそれぞれのタイミングを大切に、本人の主張を尊重するようにしています。 子どもの自主性を重んじ、子どもたちがやってみようといった活動を重視し、遊びの幅を広げています。 職員は子どもの日々の遊びの様子から興味のあることを取り入れ、動と静の2つ以上の遊びを提供し、戦隊ごっこのように小さなブロックから一人で作って皆で遊ぶなど、遊びを発展させています。遊びの中から集団生活でのルールの必要性や友達との協調性や社会性を身につけていきます。 晴れの日にはほぼ毎日戸外活動を行い、子どもの様子や希望を聞いて活動の内容を変えるなど柔軟に対応しています。 運動能力向上のために、0歳児は首が座ったら職員の見守りのもと、腹の下にクッションを置いて腹ばいにしたり、幼児は週に1回の体操教室のほか、公園や広場で、鉄棒や縄跳び、しっぽ取りなど発達に応じた運動を取り入れ

ています。

- 散歩時、積極的に地域の人にあいさつし生垣の植物や商店の店頭を見せてもらっています。
- 職員は子どもの食事の摂取量を把握し完食の喜びを感じられるよう工夫し、苦手なものでも一口は口にできるように声をかけ、できたときは十分ほめ、食べ方が遅くそれでも全部食べたい子どもの完食を待っています。
- 午睡の身支度を済ませた子どもは好きな本を読み、職員はカーテンを閉め室内を落ち着かせ、眠くない子どもは布団の上でごろごろして体を休ませます。乳幼児突然死症候群について職員は周知しており、午睡中タイマーを使用し睡眠状態の確認と記録をして見守っています。
- 職員は日々、保護者と連絡ノートや口頭で子どもの排泄リズムを把握し、職員会議で子どもの排泄状況を共有しています。就学近くになると和式トイレで練習をしています。排泄の失敗時には子どもの自尊心に留意して、他児から離れた所でシャワーと着替えをする配慮をしています。

3.サービスマネジメントシステムの確立

- 保育課程は保育の理念および新保育所保育指針に基づいて全職員が関わって作成しています。保育課程に基づいて、年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画をクラスごとに作成しています。
- 入園前に園長、主任、クラスリーダーによる個人面接を行い、子どもも一緒に来園してもらい、子どもの遊んでいる様子も観察して、観察シートを作成しています。保護者に作成してもらう生育歴や家庭での状況について面接時確認し、入園後、さらに、保護者とのコミュニケーションをとり、子ども一人一人を観察して、課題を見つけ、日常の保育に活かしています。
- 保育の理念、方針、目標については、入園時に重要事項説明書などで説明しています。運営委員会の中で園目標の掲示板を保護者と職員が一緒に作成し、玄関に掲示し、園だよりやホームページへの掲載で保護者の理解を得る工夫をしています。
- 個人面談は年に2回、保護者の都合を考慮した時間設定で実施し、保育参加と参観後にクラス担任や園長との面談の機会を設け、年に数回の運営委員会で全体の様子を、その後のクラス懇談会でクラスの様子を伝え、欠席者に後日議事録を配布し全保護者が共有しています。
- 園だより、クラスだよりを毎月保護者に配布し、日々の様子はクラスノートやホワイトボードに記載し、ホームページは随時更新しています。日々の送迎時や運営委員会、クラス懇談会で保護者の意見を聞き、問題などがあれば職員会議で図っています。
- 質問・苦情・相談について申出から解決までの流れを玄関に掲示してあり、受付責任者名を明記し、解決責任者を園長としています。第三者委員については2名の氏名と電話番号を玄関に掲示しています。
- 保護者が要望・苦情について、園以外に直接申し出られる方法を通知しています。例えば、入園のご案内に、設置法人の運営本部の連絡先を明示したり、

	<p>横浜市福祉調整委員会について玄関に掲示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内の建具はすべり止めマットで固定され、設置法人の安全委員会が作成した100項目のチェック表や、日々の事故防止チェック表で安全対策、事故防止に努めています。災害時用伝言板、災害時優先電話のシステムを導入し、職員間や保護者との連絡体制を整備しています。 ・園内には防犯カメラと通報ベルを設置し、出入り口は常に施錠しインターフォンで確認し開錠しています。不審者対応訓練を行い、不審者侵入対策として合言葉を用いています。普段交流のある保育園、商店、警察、在園児・卒園児の祖父母から情報を得て対応しています。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保土ヶ谷区の『子育て支援事業』に参加し、年2回の「親子の広場」、年3回の「子育て連絡会」で、子育て中の地域住民や地域の子育て支援団体と交流して、保育所に対するニーズを聞きだしています。園で毎月1回実施している子育て支援事業『すくすく』へ誘い、その中でも随時育児相談にのっています。 ・園の子育て支援事業『すくすく』は、月1回9時～11時に0歳からの未就園児（10組）の親子に保育室を開放したり、園庭でプールや水遊びを行ったりしています。 ・保土ヶ谷区内の地域子育て支援の活動拠点『こころ』に、園の情報や『すくすく』の案内を置いています。本年度から保土ヶ谷区の取り組みに 대응して、これから子育てを行うプレパパ、プレママに『すくすく』への参加呼びかけの掲示を行っています。 ・絵本の貸出しを卒園児や『すくすく』利用者、在園児の保護者を対象に行い、職員が園の周囲とごみ集積所の掃除を行っています。幼・保・小連携について会議の出席や、公園での遊びを共有して、小学校へ職員と子どもが園だよりを届け、学校便りをもらい交換しています。 ・幼児は定期的に地域の図書館の本の貸出しを利用し、運動会の練習を近所のグラウンドで行い、当日は小学校の校庭を利用しています。散歩時に近所の人との挨拶やハイタッチは、子ども自ら積極的にいき、園庭で栽培する野菜や花の苗を商店街へ買いに行きます。地域の団体の「公園愛護会」と保土ヶ谷区の協賛で実施する、花植え活動に近隣の保育園3園と合同で参加しています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットやホームページに保育園のサービス内容について利用者が必要とする情報を提供するほか、保土ヶ谷区こども家庭支援課や地域子育て支援の活動拠点『こころ』に情報を提供し園の紹介をしています。 ・職員は入社時に全員が受ける研修により、法の順守、倫理に基づく活動が基本であることを周知しています。設置法人内にコンプライアンス委員会が設けられており、職員の目に付くところに掲示し、さらに、個別にプリントを配布しています。 ・経営・運営に関わる情報を、ホームページで公表しています。 ・園内のリーダー会議で重要な情報は議論し、重点課題として中長期計画のテ

	<p>ーマとしています。緊急を要する課題については、職員会議やリーダー会議を開いて十分話し合っ解決を図り、全職員へ周知しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5年の中期計画目標と26年度の中期計画を作成しています。中期計画は3点の課題と具体的な推進内容をあげています。 • 将来を見越した施設運営の改善や幹部職員の後継者を育成する仕組みについては設置法人で随時検討しています。 • 設置法人代表は内閣府の委員を務めており、我が国の保育全般の問題解決に取り組んでいます。その過程で高度な専門家集団の意見を取り込み、法人運営に反映しています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 第三者評価を毎年受審し、その過程で全職員が自己評価を実施し、振り返りを行って、保育園のレベル向上に努めています。園長会議で得た他園の取り組みを検討し、実践しています。 • 『保育士人材育成ビジョン』に基づいて個人面談を行い、研修計画の目安にしています。 • 設置法人に研修内容の基本計画部門があり、半期ごとに研修計画が提示され、これに基づいて個人別に必要な研修計画を作って受講しています。この中で、経験年数や役職に応じた『階層別研修』を実施しています。 • 研修に参加した職員はレポートを提出し、職員全員が閲覧でき、各自読んで学べるようにしています。研修で学んだことを園内研修で発表し、各クラスの運営に役立てています。研修受講者が園内研修で講師を務めることで、職員の資質向上になっています。 • 各クラスリーダーを決めて、クラス運営の責任を果たすように求めており、とっさの判断を求められたときの対応でしっかりできるように努めています。結果については園長に報告するようにしています。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の理念、運営方針に設置法人が子どもの利益第一として設定したものがあり、当面の園目標を「元気に育て、心と体」として掲げています。 ・保育課程は保育の理念および新保育所保育指針に基づいて全職員が関わって作成しています。 ・入園時や年度初めの運営委員会で、園の理念、運営方針、園目標と共に保育課程について保護者に説明しています。 ・保育課程に基づいて、年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画をクラスごとに作成しています。 ・子どもの成長に合わせ、また、その日の子どもの様子に合わせて、指導計画を変更したり、カリキュラムの難易度を下げるなどの対応を図り、無理をせずに次月も引き続いて取り組めるようにしています。活動への参加も、子どもそれぞれのタイミングを大切にし、本人の主張を尊重するようにしています。 ・子どもの自主性を重んじ、子どもたちがやってみたくといった活動を重視し、遊びの幅を広げています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に園長、主任、クラスリーダーによる個人面接を行い、子どもも一緒に来園してもらい、子どもの遊んでいる様子も観察して、観察シートを作成しています。保護者に作成してもらう生育歴や家庭での状況について面接時確認し、入園後、さらに、保護者とのコミュニケーションをとり、子ども一人一人を観察して、課題を見つけ、日常の保育に活かしています。 ・乳児の入園時には、慣らし保育について、保護者の家庭環境を考慮した上で、保護者が無理なく行えるような内容で説明し、実施しています。 ・一人一人の子どもの様子についてクラス内で話し合い、前回作成した指導計画を見直し、次に反映できるように作成しています。 ・トイレトレーニング・箸への移行・離乳食など、個々のペースの配慮が必要と考える項目に関しては、保護者と相談しながら進めています。 ・年間指導計画は1～4期ごとの発達に合わせて見直していますが、訂正箇所は赤ペンで記載して、誰でも分かりやすいようにしています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・清掃はマニュアルに従って毎日行っており、清掃チェック表に清掃者が記名しています。
- ・エアコン、扇風機、加湿器、空気清浄機を設置して室内の環境を自動調整し、温湿度計を午前・午後にチェックして適切な室温を保てるようにしています。また、定期的に換気を行っています。
- ・窓側にはロッカーなどを設置せず、陽光を十分に取り入れるようにしています。
- ・西日が当たり過ぎないようにグリーンカーテンの植物を栽培しています。
- ・0歳児用の沐浴設備として浴槽もありますが、安全性を考えて、ベビーバスを使用しています。
- ・温水シャワーもあり、戸外遊びで汚れたときには、清潔にできるようになっています。
- ・0歳児は低月齢、高月齢に分けて、一人一人の生活のリズムに合わせた活動ができるようにしています。部屋は柵で仕切ったり、畳を置いたりして、少人数の遊びの空間や、休息が取れるような場を確保しています。
- ・食事をする部屋は区切っており、活動後清掃して午睡部屋にするなど保育室の工夫を行っています。
- ・2～5歳児を縦に4チーム分けて、異年齢での活動を行っています。行事や年度末パーティ、誕生会、クッキングを異年齢活動の場としています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児については、月間指導計画をクラス全体と個別の計画を発達に応じた内容で作成しています。
- ・3歳児以上の子どもに対しても、配慮の必要な子どもの場合は、随時担任が話し合い、個別指導計画を作成して、重要箇所は保護者に説明し、同意を得ています。
- ・月間指導計画も月末に見直すばかりでなく、子どもの様子、クラスの状況によって、クラス内やケース会議で話し合っ、無理のない目標に直しています。
- ・年齢に応じた期間ごとに子どもの状況、成長にかかわる事項を記載できるフォーマットにしたがって個別に記載し、児童票にまとめています。
- ・子どもの状況に関する情報は日々の保育の中でも、保育日誌、連絡・引継ぎノート、延長日誌などに記録されて、伝達されています。
- ・小学校就学時では、全ての子どもの保育所児童保育要録を直接小学校に持参し、口頭での申し送りを行っています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・障がい児、アレルギー疾患児など、配慮を要する子どもを毎年受入れ、適切な保育ができるよう取り組んでいます。
- ・職員は、それぞれのケースにかかわる内外の研修には進んで参加し、保育に活かせるようにしています。
- ・配慮が必要な子どもに関しては、個別にケース記録を取っており、毎週のリーダー会議や毎月の職員会議で報告され、職員間の情報共有が図られています。会議へ不参加の職員も議事録を読むように徹底されています。
- ・設置法人の心理アドバイザーによる巡回相談を、年度初めに申請して、年3回行っています。
- ・障がい児の支援については、個別の指導計画の内容について、日々評価・反省・達成度について話し合い、記録に残しています。
- ・毎日、子ども・保護者と挨拶する中で、健康観察を含め、心や体への気付きを全職員が意識しています。虐待のサインが少しでも見受けられたら、園長に報告し、関係機関に相談しています。
- ・食物アレルギー児には、保護者から食物アレルギー除去食申請書に対する主治医の意見書を提出してもらい、栄養士と面談し献立表に必ず反映し、適切な除去食を提供できるようにしています。
- ・食物アレルギー児に対する誤食防止のための食事提供のルールに従って、調理室から食事を受取り、子どもに提供してから食事が終了するまでのシミュレーションを行って、職員の理解度を高めるようにしています。
- ・文化の違いを考慮し、子どもたちに必要があれば習慣の違いについても話しています。
- ・日本語の不自由な保護者との個人面談のときは、通訳ボランティアに来園してもらい、連絡を密にするようにしています。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



- ・質問・苦情・相談について申出から解決までの流れを玄関に掲示してあり、受付責任者名を明記し、解決責任者を園長としています。
- ・第三者委員については2名の氏名と電話番号を玄関に掲示しています。
- ・保護者が要望・苦情について、園以外に直接申し出られる方法を知っています。例えば、入園のご案内に、設置法人の運営本部の連絡先を明示したり、横浜市福祉調整委員会について玄関に掲示しています。
- ・クレーム対応の表題のマニュアルが作成されており、重要な苦情は設置法人の運営本部、および保土ヶ谷区役所に届け出ています。
- ・申し出のあった意見・苦情等については、園長・主任に報告し、解決策、再発防止策も含めて職員会議で話し合われ、職員全員で情報を共有しています。
- ・日々寄せられる意見・苦情（連絡ノート、送迎時、懇談会などで）については、小さいことでも、クレーム対応ノートに記載し、職員全員で対応結果まで含めて情報を共有できるようにしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスは背丈に合わせたBOXに絵本、ブロック、おもまごとなど種類ごとに並べ、子どもが自由に取り出して遊べるようになっています。全クラスはクッションフロアを用い、低いロッカーが間仕切りとして活用され、広い空間やロッカーなどの陰の空間を確保し、畳、マットで年齢や遊びに対応しています。一斉活動のほか自由に遊ぶ時間を設け、メリハリをつけています。 ・職員は子どもの日々の遊びの様子から興味のあることを取り入れ、動と静の2つ以上の遊びを提供し、戦隊ごっこのように小さなブロックから一人で作って皆で遊ぶなど、遊びを発展させています。遊びの中から集団生活でのルールの必要性や友達との協調性や社会性を身につけていきます。 ・園庭で栽培する花や野菜の苗を皆で買いに行き、登園途中で捕まえたカブト虫やクワガタをクラスで飼育し、図鑑を見ながら観察しています。日々の散歩時、出会った人にハイタッチやバイバイで挨拶を交わし、物に興味を持ち指差して職員に伝え、そのやり取りを楽しみ、年長児は園周辺の大小の公園で自然の変化に触れる機会があります。 ・専門講師によるリトミック、体操の教室を通じて、子どもは自由に表現する楽しみを知り、年長児は個々にクレヨン、自由画帳にマーカーを揃え、家庭から集めた廃材とともにペットボトルのマラカスや布絵本の製作をしています。廊下に今月の歌を掲示し、要望があれば楽譜を持ち帰ることができます。 ・職員は、子ども同士のけんかは関わりの中で話し合うよう解決を見守り、言葉が十分でない年少児に表情やしぐさから欲求を汲みとって、双方が安心して過ごせるよう応えています。 ・延長保育時やクッキング保育、土曜日などでは異年齢が交流し、それぞれの役割でお手伝いしたりされたり、年上の子どもへのあこがれや年下の子どもへの思いやりが育まれるよう援助しています。 ・晴れの日にはほぼ毎日戸外活動を行い、子どもの様子や希望を聞いて活動の内容を変えるなど柔軟に対応しています。 ・運動能力向上のために、0歳児は首が座ったら職員の見守りのもと、腹の下にクッションを置いて腹ばいにしたりと、幼児は週に1回の体操教室のほか、公園や広場で、鉄棒や縄跳び、しっぽ取りなど発達に応じた運動を取り入れています。 ・散歩時、積極的に地域の人に挨拶をし生垣の植物や商店の店頭を見せてもらっています。

II-1 保育内容[生活]



- ・職員は子どもの摂取量を把握し完食の喜びを感じられるよう工夫し、苦手なものでも一口は口にできるような声をかけ、できたときは十分ほめ、食べ方が遅くそれでも全部食べたい子どもの完食を待っています。栽培した野菜を献立に加え、おかずの具に何が入っているか話し合い、野菜の皮むきの手伝いや4歳児からの当番活動で食事への関心を高めています。
- ・行事に合わせたランチは、特別な盛付やテーブルの飾り付けで雰囲気盛り上げています。食材の産地に気を配り、産地の一覧表を玄関に掲示して希望する保護者に渡しています。食器は強化磁器を用い、箸・フォーク・スプーンは子どもが選び、持ったら振り回さないなど約束をしています。
- ・職員は給食へのコメントを毎日クラスで記入し、1か月に1回の給食会議で、子どもの喫食の傾向と状況を共有し、食材の切り方、大きさ、硬さなど話し合っ調整しています。
- ・前月末に保護者へ渡す翌月の献立表は、1食ごとのカロリーとすべての使用食材が網羅され、今月のひとくち情報を記載しています。親子クッキング、試食会はそれぞれ年に1回行い、保護者から感想を聞き献立作成に活かしています。毎日、幼児食、おやつ、離乳食のサンプルを玄関に置き保護者に知らせ、人気のレシピを用意して関心のある保護者が持ち帰っています。
- ・午睡の身支度を済ませた子どもは好きな本を読み、職員はカーテンを閉め室内を落ち着かせ、眠くない子どもは布団の上をごろごろして体を休ませます。乳幼児突然死症候群について職員は周知しており、入園時に保護者へ家庭での協力を求め、午睡中タイマーを使用し睡眠状態の確認と記録をし見守っています。
- ・職員は日々、保護者と連絡ノートや口頭で子どもの排泄リズムを把握し、職員会議で子どもの排泄状況を共有しています。トイレに動物シールを貼り子どもが行きたくなる雰囲気を作っており、就学近くなると和式トイレで練習をしています。排泄の失敗時には子どもの自尊心に留意して、他児から離れた所でシャワーと着替える配慮をしています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・児童健康調査票に健康に関する基礎情報やかかりつけ医、緊急連絡先が記され、日々の個々の健康状態は日誌や児童票に記し、職員は共有しています。年度初めに全園児の保護者が児童健康調査票に加筆・変更を記入して園では最新の状況把握をしています。
- ・歯磨きは1～5歳児クラスが実施し、担任が仕上げ磨きをして歯磨きの大切さを話します。5歳児は歯科健診を機に赤染を行い子ども自身の意識づけを促します。
- ・個人健康記録票に健診結果を記載し、保護者に書面で知らせています。健診日に欠席した子どもの保護者に個別に嘱託医への受診を依頼し、100%の受診率となっています。嘱託医から感染症についていち早い情報を得るなどの連携があります。
- ・保護者は入園時の重要事項説明書の読合せで感染症に関する事項を周知しており、職員は年長児には感染症について話し、体調に変化があれば職員に訴えるように伝え対応しています。保護者には速やかに連絡し、事情を考慮した上でお迎えを要請し、医務室で安静を保ち待つよう配慮しています。完治後は登園許可証を確認しています。
- ・地域内で感染症流行時は行政の指示や嘱託医との連携で保護者へ玄関のホワイトボードに掲示し、迅速に情報提供を行っています。また、園だより、クラスだより、ホワイトボードで今流行っている病気や健康に関する情報を保護者に発信し、感染拡大の予防に努めています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



・設置法人で作成した衛生管理マニュアルの内容については、年度末に見直し情報をまとめ、園長会への提案としています。見直しの結果は速やかに職員に伝達されています。

・職員は衛生管理マニュアルについて、入社時、全員研修を受講しています。また、子どもの病気をメインテーマにした研修を計画的に受講しています。

・職員は毎朝、衛生チェック表をつけ、清掃記録表を作成し漏れがないかを確認しています。0歳児室は降園後の清掃に加え、毎朝拭き掃除を行っています。調乳器具は消毒剤で毎日消毒しています。

<工夫している事例>

・濡れたままや生乾きの布巾の雑菌の繁殖を抑えるため、洗濯後園庭でよく陽に当て、机拭き、床拭きは乾燥した物を使用しています

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



・園内の建具はすべり止めマットで固定され、設置法人の安全委員会が作成した100項目のチェック表や、日々の事故防止チェック表で安全対策、事故防止に努めています。また、災害時用伝言板、災害時優先電話のシステムを導入し、職員間や保護者との連絡体制を整備しています。

・毎月1回の防災訓練、通報訓練を行い、今年度から、園舎のある建物合同の訓練も行っています。日々の散歩時に災害時の避難場所近くの公園に行く機会を多くして、災害時に備えています。警報や注意報が発令されると自治体からメールやファクスが届き対応しています。また、職員10名が幼児安全法支援員のライセンスを取得しています。

・近隣の医療機関、保育園、消防署、警察署の連絡先一覧表を事務室に掲げて連絡体制を取っています。

・子どものケガは軽傷でも保護者に状況を伝え、記録しています。また、インシデント・アクシデントレポートは随時記入し職員会議で報告し、再発防止の改善策をその場で考え、職員間で共有しています。

・園内は防犯カメラと通報ベルを設置し、出入り口は常に施錠しインターフォンで確認し開錠しています。不審者対応訓練を行い、不審者侵入対策として合言葉を用いています。普段交流のある保育園、商店、警察、在園児・卒園児の祖父母から情報を得て対応しています。

評価分類

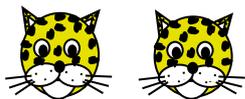
評価の理由（コメント）

Ⅱ－3 人権の尊重



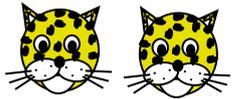
- ・職員は子どもの状態、発達に応じて援助を行い子どもの目線に立ち、せかしたり強制する行為や言葉遣いに職員間でも気をつけています。職員は子どもの気持ちの発信を尊重し、言葉で表現ができない子どもの指差しや「あー」の意思表示、幼児の「〇〇したい」という意見を取り上げて、家庭での呼び名を園でも使い、子どもの気持ちに寄り添っています。場合により担任だけで手に負えない状況があれば、担任以外の職員が声をかけたり保育内容と違った場面を作って空気を変えたりして子どもの気持ちが落ち着くまで待っています。
- ・廊下の長いす付き絵本コーナー、ロッカーの陰、クラスの一 corner のカーテンの陰などでゆっくり過ごす子どもがあり、職員は必要に応じて1対1で話し合います。おむつ替えはほかの子どもから見えない位置で行い、トイレは一部がドア付きで、子どものプライバシーが守れるようにしています。
- ・個人情報保護と守秘義務についてのガイドラインを全職員は入職時研修を受講し周知しています。保護者には入園時に、園のホームページの写真掲載などへの承認を書面で確認し、行事や生活の写真はインターネット販売にしてパスワードとIDで守るなど、個人情報を保護しています。個人ファイルが入っている棚は開園時に開錠、閉園時に施錠し、個人名の入った書類は園外持ち出し禁止となっています。
- ・グループ分けや行事の役割、衣装など子どもの意見を尊重し、園内での順番は月齢順、名前順が定着し、整列は用意ができた順にし、職員は男女に関係なく個々を育てる意識を高めています。

Ⅱ-4 保護者との交流・連携



- ・保育の理念、方針、目標については、入園時に重要事項説明書などで説明しています。運営委員会の中で園目標の掲示板を保護者と職員と一緒に作成し、玄関に掲示し、園だよりやホームページへの掲載で保護者の理解を得る工夫をしています。
 - ・個人面談は年2回、保護者の都合を考慮した時間設定で実施し、保育参加と参観後にクラス担任や園長との面談の機会を設け、年に数回の運営委員会で全体の様子を、その後のクラス懇談会でクラスの様子を伝え、欠席者に後日議事録を配布し全保護者が共有しています。
 - ・保護者から相談を受けるときは、内容によって園内の空き室で応じ、日誌の個人ケース欄に記載しています。即答できない事例や内容は担任、園長、主任、栄養士が助言し対応します。継続的支援が必要な場合、西部地域療育センター、保土ヶ谷区福祉保健センター保健師と必要に応じて連絡を取り合っています。
 - ・園だより、クラスだよりを毎月保護者に配布し、日々の様子はクラスノートやホワイトボードに記載し、ホームページは随時更新しています。日々の送迎時や運営委員会、クラス懇談会で保護者の意見を聞き、職員会議で図っています。
 - ・年間行事予定表は4月に配布し保護者の早めの予定組みに配慮しています。保育参観は年に2回3日間、保育参加は10月～12月に月に2回を設定し、保護者が参観・参加しやすくしています。
 - ・年度末に保護者へ懇親会の打ち合わせや当日の会場用に保育室を開放し、保護者からの申し出で、不要な玩具や衣服の譲り合いに玄関の棚を提供しています。
- <コメント・提言>
- ・夏まつりの設営や園外保育や運営委員会での衣装づくりなど園では保護者の援助を受ける機会がありますが、独立した保護者組織がありません。保護者が自主的に組織を作り、園との関係がより深化することを期待します。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<p>・保土ヶ谷区の『子育て支援事業』に参加し、年2回の「親子の広場」、年3回の「子育て連絡会」で、子育て中の地域住民や地域の子育て支援団体と交流して、保育所に対するニーズを聞きだしています。園で毎月1回実施している子育て支援事業『すくすく』へお誘いして、その中でも随時育児相談にのっています。</p> <p>・園の中長期計画の課題としている地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスについて職員会議の中で話し合い反省しています。</p> <p><コメント・提言></p> <p>・『すくすく』で毎月、地域の未就園児と親を対象に部屋を開放して遊んだり子育て相談にのったりしていますが、育児に関する講座などを園の専門的見識をもって開くまでに至っていません。育児講座開催へ発展する工夫が望まれます。</p>

Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能



・保土ヶ谷区のホームページの中の複数の箇所に、園の情報を提供したり、子育て相談の案内をしたりしています。

・園の子育て支援事業『すくすく』は、月1回9時～11時に0歳からの未就園児（10組）の親子に保育室を開放したり、園庭でプールや水遊びを行ったりしています。

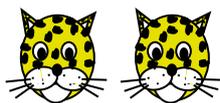
・保土ヶ谷区内の地域子育て支援の活動拠点『こっころ』に、園の情報や『すくすく』の案内を置いています。本年度から保土ヶ谷区の取り組みに応じて、これから子育てを行うプレパパ、プレママに『すくすく』への参加呼びかけの掲示を行っています。

・医療機関、療育機関、児童相談所、行政などの関係機関はリストアップし、連絡先を事務室に掲示しています。自治会、商店街とは避難訓練の連携やハロウィンの行事での協力などで、日常的な連携ができています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<p>・卒園式や行事に地域在住の第三者委員を招待しています。自治会に入会し同ビルの住民と防災訓練に参加し、近隣の保育園とは年に数回以上遊びの交流を行い、商店街と夏まつり、ハロウィンや勤労感謝の日の交流を通して友好的な関係を築いています。</p> <p>・絵本の貸出しを卒園児や『すくすく』利用者、在園児の保護者を対象に行い、職員が園の周囲とごみ集積所の掃除を行っています。幼・保・小連携について会議の出席や、公園での遊びを共有して、小学校へ職員と子どもが園だよりを届け、学校便りをもらい交換しています。</p> <p>・幼児は定期的に地域の図書館の本の貸出しを利用し、運動会の練習を近所のグラウンドで行い、当日は小学校の校庭を利用して行います。散歩時に近所の人との挨拶やハイタッチは、子ども自ら積極的に行い、園庭で栽培する野菜や花の苗を商店街へ買いに行きます。地域の団体の「公園愛護会」と保土ヶ谷区の協賛で実施する、花植え活動に近隣の保育園3園と合同で参加しています。</p>
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<p>・ホームページに写真入りで保育園の様子を知らせ3か月に1回更新し、区役所のウォールポケットに園のパンフレットを差し込み、関心のある人が自由に手にできる工夫をしています。子育て支援『すくすく』利用者に園のパンフレットを渡して要請があれば、料金、サービス内容など細かく説明して、当園の情報を提供しています。</p> <p>・子育てママの地元保育園の情報サイト「まみたん園ナビ」（インターネット情報誌）に、随時見学ができることを案内し、希望者の意向に沿って園長や主任が対応しています。園の基本方針や利用条件、サービス内容をパンフレットに記載して、説明のうえ来園者に渡しています。</p>

IV-3 ボランティア・実習の受け入れ



・業務マニュアルにボランティア・実習生受け入れガイドがあり、受け入れ予定について園だより、ホワイトボードに載せ説明し保護者に知らせ、理解を得ています。ボランティア、実習生の受け入れ担当は園長が担います。

・大学のボランティアサークルの折り紙教室や外国籍の保護者に通訳ボランティア、行事やイベント時のボランティアを受け入れていますが、活動記録への記載がありません。

・実習生の受け入れに園長は設置法人と連携を取りながら、良い状況で年に2回実施し、個人情報保護と守秘義務について実習生から誓約書を取ります。昨年と同じ学生を受け入れるほか、他学校の申し込みに応じており、プログラムは学校の希望と本人の希望を職員と子どもの状況に照らし合わせて、可能なかぎり取り入れます。日々職員と実習生は意見の交換をしながら保育にあたり、職員は学生から改めて学ぶことも多く良い効果があります。

<コメント・提言>

・ボランティアの日々の活動のなかで意見を聞き記録し、園運営に役立たせることを期待します。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<p>・園長は職能・職種や経験年数などを考慮した職員配置になるように努め、職員に欠員が出た場合は、設置法人本部に補充を依頼しています。</p> <p>・設置法人には『保育士人材育成ビジョン』があり、これをもとに園長は、職員とは個別に面談を行っています。職員は半期に1度、自己査定を行い、園長との個人面談の中で、目標に対する達成度を確認し、次期の目標を立てています。</p> <p>・法人本部に研修内容の基本計画部門があり、職員に対する半期ごとに研修計画が提示され、これに基づいて個人別に必要な研修計画を作って受講しています。この中で、経験年数や役職に応じた『階層別研修』が実施されています。</p> <p>・研修に参加した職員はレポートを提出し、職員全員が閲覧でき、各自読んで学べるようにしています。研修で学んだことを園内研修で発表し、各クラスの運営に役立てています。研修受講者が園内研修で講師を務めることで、職員の資質向上になっています。</p> <p>・園の業務マニュアルは、正規職員と非正規社員とは区別なく使われています。業務マニュアルは読みやすい場所に置き、非正規社員には読んだらサインしてもらおうようにしています。非常勤職員にも園長との個人面談を実施し、一般職員と同様な自覚と責任を持たせるように指導しています。非常勤であっても、クラス担任になってもらっている職員には、1日のリーダーや部分リーダーを委託しています。</p>

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価を毎年受審し、その過程で全職員が自己評価を実施し、振り返りを行って、保育園のレベル向上に努めています。園長会議で得た他園の取り組みを検討し、実践しています。 ・指導計画については、フォーマットに沿って作成前に前回の内容についてクラスで振り返り、それに基づいて次回の内容に必要ながあれば反映するようにしています。週案のねらいをどう実践されたか、日々評価して、日誌に記録しています。 ・クラス間の話し合いの場を設け、必要なら職員会議で取り上げ、課題解決策などについて話し合っています。例えばプールの時間の調整、トイレが混雑しない方策などクラス間の連携について話し合っって試行錯誤で解決しています。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは0歳児でも意思決定するものとの認識を持って、個々の子どものやりたかったのは何か、それに対して職員自身はどう対応したかの視点を重視して評価し記録しています。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所として自己評価した結果は、関係先に公表する手段を工夫して、実践することを期待します。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育士人材育成ビジョン』に基づいて個人面談を行い、研修計画の目安にしています。 ・各クラスリーダーを決めて、クラス運営の責任を果たすように求めており、とっさの判断を求められたときの対応でしっかりできるように努めています。結果については園長に報告するようにしています。 ・業務の改善には積極的に意見を提出する職場環境を作るように努めています。職員の申し出による改善例として、部屋のレイアウトの変更、備品のスムーズな確保、経験の浅い人へのアドバイスの工夫などについて話し合わせ、職員が自分の意見を持つようになっていきます。 ・年2回実施されている園長による職員との個人面談などで職員の意見・要望をきいて、満足度を確認しています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入社時全員代表研修を受け、法の順守、倫理に基づく活動が基本であることを周知しています。社内にコンプライアンス委員会が設けられており、職員の目に付くところに掲示し、さらに、個別にプリントを配布しています。 ・経営・運営に関わる情報は、ホームページで公表されています。 ・園長会議で他園の不適切な事案については必ず報告されますので、その内容は職員会議で周知徹底されています。重要事案は会議を2部制として、全員に徹底するようにしています。 ・廃材を利用した製作を保育に取り入れ、おもちゃを手作りしています。また、手拭用のペーパーの使い方について、幼児クラスで話し合っ、必要以上に使用しないようにしています。さらに、紙の無駄をなくするために裏紙の使用を徹底しています。 ・エコキャップの利用について、保護者にも説明し、園を上げて集めています。集めたキャップの数は園だよりで知らせ、玄関にも掲示しています。 ・園全体で省エネルギーに努め、子どもたちの不在時の照明・エアコンなどの節電、扇風機を利用してエアコンによる温度調節の抑制、不要器具の待機電力をゼロにするためにコンセントを抜くなど、毎日節電シートでチェックしながら節電を図っています。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・基本方針については、玄関に掲示しています。リーダー会議で年間指導計画を持ち寄って、作られた経緯について発表し合い、理念・基本方針に基づいているか確認しています。 ・昨年度の行事終了後に行ったアンケートをもとに、今年度の行事のあり方を検討し、保護者の声を活かせるように進めています。 ・園目標をさらなるステップアップのために変更したときは、保護者との運営委員会や園だよりで丁寧に説明しています。重要な意思決定に際しては、職員会議などで意見交換をしています。 ・設置法人が計画する研修計画に主任のコースを設定しています。主任の業務は明確に決めており、個々の職員の事情・健康状態・クラス運営への支障はないかなどを把握し、職員の相談に乗ったり、園長からの助言を得て全体調整を図ったりしています。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園運営に関わる新聞記事はコピーして園内に回覧し、意見をレポートするよう指示しています。 ・園内のリーダー会議で重要な情報は議論し、重点課題として中長期計画のテーマとしています。緊急を要する課題については、職員会議やリーダー会議を開いて十分話し合っ解決を図り、全職員へ周知しています。 ・5年の中長期計画目標と26年度の中期計画を作成しています。中期計画は3点の課題と具体的な推進内容をあげています。 ・将来を見越した施設運営の改善や幹部職員の後継者を育成する仕組みについては設置法人で随時検討されています。 ・設置法人代表は内閣府の委員を務めており、我が国の保育全般の問題解決に取り組んでおり、その過程で高度な専門家集団の意見を取り込んでいて、法人運営に反映しています。

利用者家族アンケート

施設名：アスク和田町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数69名、全保護者60家族を対象とし、回答は30家族からあり、回収率は50%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収しました。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答が90%（満足57%、どちらかといえば満足33%）となっており、否定的な回答は10%（どちらかといえば不満10%、3人）となっています。

◇ 比較的満足度の高い項目

1)「園の基本理念や基本方針の認知について」の回答（よく知っている、まあ知っているの合計）は56%でしたが、この全員が内容について賛同できると回答しています。

2)日常の保育内容 生活についての設問で、「給食の献立内容について」の回答（「満足、どちらかといえば満足」の合計）は100%、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか」の回答は、同97%と高い評価でした。

3)園と保護者との連携・交流についての設問で、「お子さんに関する重要な情報の連絡体制について」の回答（「満足、どちらかといえば満足」の合計）は100%、「保護者からの相談ごと」、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換について」の回答は、同97%と連携や交流には満足している様子がうかがわれます。

4)日常の保育内容の遊びについての設問で、「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」、「遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているか」の回答（「満足、どちらかといえば満足」の合計）はそれぞれ97%、「子どもが戸外遊びを十分しているか」の回答は、同94%となっており園外活動や戸外遊びなど評価が高いことがうかがわれます。

5)職員の対応について、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しているか」の回答（「満足、どちらかといえば満足」の合計）は97%と高い評価でした。

◇ 比較的満足度の低い項目

1)職員の対応について、「意見や要望への対応について」の設問に対し、「どちらかといえば不満、不満の合計」は17%ありました。

2)保育園の快適さや安全対策について、「施設設備について」、「お子さんが落ち着いて過ごせるか」の設問に対し、「どちらかといえば不満、不満」の合計は、それぞれ14%、10%ありました。

3)日常の保育内容 生活について「お子さんの体調への気配りについて」、「年間の保育や行事の説明について」の設問で、「どちらかといえば不満、不満の合計」は、それぞれ13%ありました。

4)「園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供」は「どちらかといえば不満」が10%ありました。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	23%	33%	14%	23%	3%	4%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	71%	29%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	53%	27%	3%	0%	14%	3%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	43%	47%	3%	0%	4%	3%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	37%	47%	7%	0%	6%	3%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	47%	37%	10%	0%	3%	3%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	40%	43%	7%	0%	7%	3%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	40%	40%	13%	0%	4%	3%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	50%	37%	13%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	37%	50%	10%	0%	3%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	63%	27%	3%	3%	4%	0%
その他:						
子どもが戸外遊びを十分しているか については	67%	27%	6%	0%	0%	0%
その他:						
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置 いてあるか、年齢にふさわしいかな ど)	57%	33%	3%	3%	4%	0%
その他:						
自然に触れたり地域に関わるなど の、園外活動については	60%	37%	3%	0%	0%	0%
その他:						
遊びを通じて友だちや保育者との関 わりが十分もてているかについては	60%	37%	3%	0%	0%	0%
その他:						
遊びを通じたお子さんの健康づくり への取り組みについては	63%	30%	7%	0%	0%	0%
その他:						

生活について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	77%	23%	0%	0%	0%	0%
その他:						
お子さんが給食を楽しんでいるか については	70%	23%	0%	3%	4%	0%
その他:						
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗 いなど)の自立に向けての取り組み については	63%	30%	0%	3%	4%	0%
その他:						
昼寝や休憩がお子さんの状況に 応じて対応されているかなどに ついては	70%	27%	3%	0%	0%	0%
その他:						
おむつはずしは、家庭と協力し、お 子さんの成長に合わせて柔軟に進 めているかについては	57%	30%	0%	0%	13%	0%
その他:						
お子さんの体調への気配りに ついては	60%	27%	10%	3%	0%	0%
その他:						
保育中にあったケガに関する保護 者への説明やその後の対応には	57%	33%	7%	3%	0%	0%
その他:						

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	30%	53%	7%	7%	3%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	30%	57%	7%	3%	3%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	37%	54%	3%	3%	0%	3%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	47%	47%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	57%	40%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	60%	30%	10%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	60%	33%	0%	3%	4%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	57%	40%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	60%	40%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	57%	40%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	67%	24%	3%	3%	0%	3%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	53%	37%	3%	0%	7%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	67%	30%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	57%	27%	0%	0%	16%	0%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	63%	30%	3%	0%	4%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	53%	30%	14%	3%	0%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	57%	33%	10%	0%	0%



観察方式による利用者本人調査

平成 26 年 8 月 8 日、13 日

施設名：アスク和田町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

◇0 歳児

遊び

0 歳児のクラスは 2 つの間仕切りを使って 3 つのエリアに分け、静と動の空間の保育室になっています。真ん中に位置する「動」の部屋では様々の色の柔らかいボールが人数分以上に転がり、子どもはお気に入り片手に持って、よちよち歩きをしたり、職員とのボールのやりとりを楽しんでいます。調査員が間仕切越しに「おはよう」とあいさつすると、そばまでよちよちやってきて、間仕切につかまり、体を上下にゆすってあいさつを返す子どもや間仕切越しに手を伸ばしスキンシップをねだる子どもがいます。また、担当の職員の膝に座って遠くから調査員をジッと見て「にこっ」と笑顔を見せる子どもや、にこにこ立ったり座ったり遊んでいたのに、久しぶりにきた職員が部屋に入ると急に泣き出し、大慌てで慣れている職員の膝に座り、恐る恐るその顔を確認している子どももいます。そばで、はいはいしていた子どもが「ヨイショ」と立上がり、職員に向かって一歩進み、二歩目でドスンとおしりをつき、職員が「〇〇ちゃんが歩いた、歩いた」と大喜びしています。奥の畳を敷いた部屋では数人の子どもが午前寝でぐっすり寝ています。

◇1 歳児

遊び

子どもたちは、今遊んでいた玩具を片付けて、着替えのために壁に沿って順番を待っています。プール遊びが好きな子どもはさっと気持ちを切り替えておもちゃを片付けていますが、切り替えが出来ずに「遊びたい」と大声で泣いている子どもがいます。職員は泣いている子どもに声をかけ、一緒に廊下から友達の水遊び袋をクラスに運び、職員との手伝いに得意げな表情になりました。子どもたちは順に職員に呼ばれて一人一人手伝ってもらい、着替えをすませます。友達のおもちゃを片付けながらまたそれで遊んでしまう子どもや、自分でズボンを脱いで順番を待つ子ども、「運動会の赤白帽をかぶりたい」と主張し通した子どももいます。皆が揃い列を作って、すのこの上を「1, 2, 1, 2」と進んでプールに向かいます。

プールに入る前に小さなたらいで 4 人ずつ四方を向いておしりをつけて消毒し、小さなビニールプール 2 つで水遊びをしています。プールの中に入る子どもや、外側にしゃがみ込んで手にしたおもちゃで水を出したり、好きなように遊んでいます。2 つのプールを出たり入

ったりして、おままごとの入れ物やボール、スポンジ、ペットボトルなどで遊んでいます。友達が持っているおもちゃに興味を持ち取り上げてしまうと、取られた子どもは大泣きしています。職員が両方の子どもに声がけし、何事もなかったように遊び続けています。子どもたちは向き合ってプールに入り、「きゃっきゃ」と楽しそうに笑っています。プールの後は昼食までぬいぐるみや電車とレールで静かに遊んでいます。

午睡

パジャマに着替えて、自分の布団に行って横になります。職員は子どもの間に座り、子どもに体をトントンしたり、抱っこしてゆすっています。すでに寝ついている子どももいれば、布団の周りを歩いている子どももいます。30分ほどすると全員眠りにつきました。

◇2歳児

食事

3つのテーブルをつなげ、4人ずつ座り食事をします。献立は夏まつりの屋台風で「スープ、焼きそば、茹とうもろこし、スイカ」です。配膳の時、職員はスプーンを使うか、フォークを使うか子どもに聞き、スプーンの子どものには麺を皿の上で短く切って食べやすくしています。食事の前の約束をみんなで確認し、「お皿はおなかのそばにおきます。お口に食べ物が入ったらおしゃべりしません」と一斉に唱和し大きな声で「いただきます」をします。真っ先に実がなくなるまでとうもろこしにかぶりつく子どももいます。夏祭りを思い出して会話が弾み、ある程度皿の中がなくなると、職員がスイカを配ります。とうもろこしに時間をかけていた子どもは、あわてて焼きそばにフォークを運びます。食事に時間が掛かってしまった子どもに職員が「〇〇ちゃん頑張れ」と声を掛けると、友達が「〇〇ちゃんがんばれ」と声援します。最後まで食べたい子どもはテーブルを隅に寄せてもらい、子どもは完食しました。

食後の歯磨きと着替え

食事が終わった子どもから、用意してある籠から自分の歯ブラシとコップを持って椅子に座り、歯磨きを始めます。磨き終わると職員に仕上げ磨きを頼みます。職員は「どうかな？ 緑（にら）が付いているよ」などと話しかけながら仕上げ磨きをし、終わった子どもはパジャマに着替えます。ズボンを簡単に脱ぎ、履くときは、片方の足が入っても、もう一方がなかなか入らず、難しそうです。「壁に寄り掛かるのは？」と職員の助言で頑張ります。紙パンツの子どもは両手でパンツを引き上げますが、おしりがうまく入らず、膝まで下ろしたり、上げたり挑戦しています。また、子どもが上着を脱ごうと両手を使って頑張っていると、職員が「手をばってんするといいよ」といい上手に脱げました。着替えを済ませた子どもは椅子を並べた絵本コーナーでお友だちの準備を待っています。

遊び

プール遊びが終わって温水シャワーを浴び、食事まで3つのエリアで子どもは自由に遊びます。机にはワミー、大きなひも通し、細かいひも通しがあり、職員が積み木程の大きさのものにひもを通す見本を見せています。「聞きたいことがあったら先生に聞いてね」というと「ハアーイ」と子どもは黙々とひも通しをしています。また、子どもが机に来てワミーのふたを開けようとして誰に言うともなく「できない」と言うと、「あけてくださいは？」と職員に促され、言い直し、子どもはワミーに取り掛かることができました。ひも通しの机では、子どもがひもにいろいろなものを通して職員や調査員に見せ、ほめられると満足そうにしています。ひも通しの材料を「ザッ」と元に戻したり、ひもの先の重さを知って振り回したり、面白くて「もっとやりたい」と、なかなかひもを渡さなかったりと様々です。

◇3歳児

製作活動

少し厚手の色紙に、大きなハートの図を描いて、子どもたちに配り、ハサミで、ハートに切り出す製作の課題に挑戦することになりました。ハサミは直線切りの経験しかなく、曲線で切り抜くのは初体験です。初めはどの子どももハサミをどう動かしていいか戸惑っていましたが、職員から手を添えられて、カーブに沿って切っていく要領を教えられると、皆真剣に無口になって切り始めました。初めは曲線の上をスムーズに切れません。「線に沿って切るのよ」と、職員が一人一人に声掛けして回っています。少しずつ切って、ハート型の切り抜きができると、作品を持って「できた！できた！」と立ち上がって喜んでいきます。子どもたち全員がハートの切り抜きを完成させると、皆満足そうな顔をしていました。使ったハサミは職員に言われなくても、ハサミ箱に納めていました。

◇5歳児

体操教室

4、5歳児クラスの境目に置いている背の低いボードを移動して、部屋を広くして体操教室の場所とします。(4歳児は園庭でのプール遊びで室内にはいません)

直径5センチメートルぐらいの柔らかいカラーボールを使った、体操が始まります。

まず、ボールを各自あごの下に入れて、落とさないように歩き回ります。次いで専任講師の掛け声で走り回ります。次に頭と右側の肩にボールを挟んで、歩いたり走ったり、左の肩に移して歩いたり走ったり。時々ボールを落とすと、はずむボールを大声で追いかけて拾って続けます。子どもたちはボールを落とさないように真剣です。ボールを追いかけて、子ども同士がぶつかって転んでも、喜んで続けています。ボールの挟む位置を脇の下、膝の間、足首の間にしたり、飛んだり跳ねたりしています。難しい場所に挟んで成功すると職員に褒められ、「出来たよ」と大喜びしています。

講師がロープで部屋の中央を仕切り、部屋中に300個程度のボールをばらまきます。子どもたちを2チームに分けて、仕切り線に座って対峙させます。ボールを相手陣へ投げ合うゲ

ームです。講師が「相手側にたくさん投げ入れたら勝ち、ただ投げるとき相手チームの人にぶつけないこと」とゲームのルールを告げて、ゲーム開始です！ 子どもたちは我先にボールを掴んでは投げています。夢中になって頑張り、部屋中にボールが飛び交います。そのうちボールを何個も拾い集めて、まとめて相手側に投げたり、目の前にあるボールを次々に相手側に転がしてたりするなど、勝負にこだわる工夫が生まれます。講師がゲーム終了を告げ、それぞれのチーム内のボールを数えて、〇〇チームの勝利を宣言します。勝ったチームの子どもたちは大きな声で勝利を喜び合っています。2回戦目は△△チームの勝利となり、勝ったチームは大歓声で勝利に酔っています。ゲームはもう一度行って、子どもたちは興奮して勝利の決着をつけました。

そのあと、ボールの片付けの掛け声をかけると、全員夢中になって部屋中に散らばっているボールを拾い集め、瞬く間に終了し、子どもたちは皆満足して体操教室は「ありがとうございました」のあいさつで終わりました。

◇4-5 歳児

昼食

各クラスの食事当番の子どもがクラスごとに2名ずつ、エプロンを身にまとい、頭にバンダナを職員に付けてもらい、お茶、お食事の皿、スープと箸を子どもたちが座っているテーブルに運びます。終わると、4人の当番が並んで、配った内容を一つ一つ尋ねます。子どもたちは声を合わせて「ありますー」と答えています。「それではいただきます」「いただきます」と合わせて、食事を賑やかに始めました。

調査員が座ったテーブルの5歳児の子どもたちは、さきほどのボールゲームの結果について、勝って良かったと満足して話し合っていました。盛り付けられた鶏肉は、大好きなので最後と言う子どもがいる一方、肉からおいしそうに食べる子どももいます。スイカを掴んで「種も食べるんだ」とある子が言うと、「種はおなかの中に入ると芽を出して、口から出てくるよ」と大笑いしています。「うそうそ！」「うそでした！」など、冗談を言いながら、楽しく食べています。

食事が終わると、職員の声掛けに従って、スイカの皮、鶏肉の骨などはビニールの袋に入れて、食器の種類ごとに揃えています。全員完食のようでした。

午睡（準備も含めて）

自分たちの布団を、布団の置いている棚から職員に持ち出してもらって、部屋に並べていきます。シーツ、上掛けを合わせてセットにしています。それぞれには番号がついていて、それを見ながら合せています。番号をみて「〇〇君はお休みだよ」と言いながら、職員に戻っています。みんな、番号で誰のものか知っているようです。「△△ちゃんは××ちゃんの隣がいいの？」などと言いながら並べていきます。

始め、乱れていた並べ方は、最後は部屋中にきちん並び終わりました。

それから、各自、パジャマに着替えたり、トイレに行ったり、静かに過ごす時間を経て、各自自分の布団に横になります。

【受審の動機】

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げております。利用者が園に求めている事柄や日々の真の想いを把握し、日々の運営に反映させるため、本年も評価受審に取り組みました。

開園当初より、同じ評価機関に評価を依頼することで、比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけると感じております。

また、今年で開園 8 年目となり、これまで築いた土台に加え、今年度の園の取り組みや対応を振り返ることで、職員一人一人が自らの保育を見直す良い機会であったと捉えています。

今後も常に利用者のニーズに添い、子どもに寄り添いながら、選ばれ続ける施設でありたいと考えております。受審にあたっては、職員一人一人が趣旨を理解し、取り組むことが出来ました。

【受審した結果】

この受審をきっかけとして、全職員が自分自身の保育や園全体の運営について、基本的なことから見つめ直すことができ、客観的自己評価の大切さを実感することができました。

また、評価結果をもとに、保育の役割と機能、地域における役割や結びつきの大切さといったものを再認識することができ、今後も保育内容の改善・充実を図りながら、より求められる保育園を作っていこうと決意いたしました。

今年度は特に、前年度指摘事項の「地域支援機能」にも意欲的に取り組み、達成率の向上が見られたことは大きな成果でした。また、日頃より利用者とのコミュニケーションを密にとり、信頼関係を築いていくことを大切にしている私たちにとって、今年度も職員の対応などをはじめとする利用者満足度が高いという結果は大変嬉しいもので、励みになりました。

その反面、開かれた園の運営という課題は不足している面がありますので、努力していく所存です。今後も引き続き、地域に開かれ、親しまれる園を目指して中長期的な展望のもとに、園運営の方向性を示して、その実現に向けて努力してまいります。

最後に、今回の第三者評価の受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、そしてご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。